

エイズ治療拠点病院医療従事者

海外実地研修報告書

1、研修参加者

所属、職名：仙台医療センター 神経内科

指名： 成川孝一

2、研修日程、コース

日程：2012.10.6～10.21

コース名：サンフランシスコ研修（医師等コース）

3、研修の内容

10/8 am program explanation (Masami Kobayashi)

pm Coinfected patients, what HIV clinical specialists is and does

Tour of Ward 86 (Guy Vandenberg)

Observe “STOP AIDS” Mobile Testing Van

Castro area lecture tour(Masami Kobayashi)

10/9 am L.I.F.E Program for HIV and HCV coinfecting patients

(John Olesen, Shanti project)

pm Community support discussion (Masami Kobayashi)

HIV neurology (Cheryl Jay, MD)

10/10 am HIV epidemiology statistics(Masami Kobayashi)

How San Francisco uses epidemiology for HIV/AIDS prevention

(San Francisco AIDS Office, San Francisco Department of Public

Health Sharon Pipkin, Epidemiologist)

pm GI issues and HIV, endoscopy (John Cello, MD)

10/11 am Library Study

pm HIV care for homeless and patients with compliance issues

(Barry Zebin, MD)

- 10/12 am Patient perspective
Meeting with Dan Bernner, a person living with HIV
- pm HIV primary care Q&A (Howard Edelstein, MD, Chief of Highland Adult Immunology Clinic)
- 10/15 am Why HIV prevention Matters: The San Francisco Experience
(Mitchell Feldman, MD, PhD)
- pm Watches DVD of “And the Band Played On “
- 10/16 am HIV care observation with Dr. Howard Edelstein
(Dr. Howard Edelstein, MD at Highland Adult Immunology Clinic)
- 10/17 am Topics in HIV clinical pharmacy (Kirsten Baleno, PharmD)
HIV and aging care (Masami Kobayashi)
- 10/18 am Behavior Change and HIV/AIDS (Mitchell Feldman, MD, PhD)
- pm Therapy for experienced patients and latest medical care
(Hiroyu Hatano, MD)
- 10/19 am Doctor’s final presentations(Masami Kobayashi)
pm labo room

4、研修の成果、感想

- ① 自分の立場が神経内科医であることもあり、今回の志望動機でもあったように HIV 神経疾患合併症全般、HIV neurology に関してという点が最も興味を持って臨んだところであるが、その点についても理解が深まった。しかし、それ以上にこのプログラムに参加して分かった点、感じた点は多かったように思われる。神経内科医の立場から実際に印象的だったのが Cheryl Jay MD の “HIV neurology”であった。San Francisco で臨床経験が豊富な臨床家であって、講義内容、discussion とも非常に実践的と言えるものであった。サンフランシスコでの医療の変遷、考え方の過去、未来に加えて症例を 4 例程示され、内容（具体的には病歴、画像、治療、経過と問題点 etc）も充実していた。免疫再構築症候群についての考え方も自分は国内の evidence のなさに不安を感じていたのだが、彼女の講義内容を聞いてサンフランシスコの臨床家さえ私と同じ考え方をするのだと背中を押された気がした。またもう一つ印象的で講義内容に満足いったものをあえて挙げるとすれば Hiroyu Hatano, MD の ”Therapy for experienced patients and latest medical care”である。エイズ患者の治療が現在の先生の本業とのことであったが一つ一つの症例へのアメリカのアプローチメソッドを始めとする思考の仕方等も非常に参考になった。我々のグループでは参加医師の一人が症例呈示する方式で講義が進んだが今回のような形式は今後も有用なのではないかと考える。
- ② 日本での HIV/AIDS 患者の疫学については文献資料で目にして知識もあったが、実際 San Francisco AIDS Office, Department of Public Health に行き、専門家の先生から統計手法、lecture を受けることにより一段と知識が深まった。サンフランシスコの公衆衛生局の方々も忙しいであろう中、大変親切に熱意のある講義を行って頂いた。また実際の患者からの話や Shanti といった Social program に参加したり、実際体験した話、苦勞している点を本人より聞いたのも非常に新鮮であった。患者が実際に今住んでいるカストロ地区やテンダーロイン地区を歩いてみるプログラムを第 2 日目位に設定していただいたが、このことはプログラム参加者でなければ味わうことの出来ないまさに生きた感覚であり、大変貴重なものであった。体験した我々はしっかり伝える義務があると感じた。
- ③ 行程としては現在の 2 週間でもかなりの質と量であるように感じた。ただふりかえってみてプログラムを有意義なものとし、成功とするか否かに必要なのはやはり英語力とある程度の協調性のある集団であることのように思われる。Masami さん、David さんが献身的に我々のコーディネイトをしてくれるが、実際指導頂く講師陣はサンフランシスコで多忙の時間を割いてまで我々にインパクトを残そうと御尽

力してくれる方々である。その時間での英語の読解力やリアルタイムでの質問、討議に参加することは必須と思われる。また、近年のアジア諸国（中国、インドを特に）での英語力向上もあり、日本人達は語学力がなく **discussion** に物足りないと思われればこのプログラムに協力しようと考えてくれる講師も少なくなるのではないかと懸念される。英語力は自分と同等以上は当プログラムに参加するのに対して必須のものと思われる。日本の若く、英会話スキルに長けた希望者を来年以降選出することを財団には強く勧めたい。宿泊代は今年度から自己負担でということだったが、それは止むを得ない事情だと思われる。“学び”に行く研修なのであって2週間程度の宿泊代を捻出出来ない者はプログラムに臨む **motivation** に疑う余地があると思われる。

- ④ 今回得た知識を臨床現場での活用、また院内医師や研修医、看護師などのコミュニケーションにもフィードバックし日常の臨床に役立てたいと考える。

当初の目的を果たすことが出来、さらに想像以上に多くのものを得ることが出来ました。エイズ財団、ならびに関係者の皆様、この度は大変有難うございました。